

## 理論と実践を往還する教員養成の評価, 改善, 展開

○田幡憲一<sup>1</sup>, 五十嵐誓<sup>1</sup>, 大迫章史<sup>2</sup>, 齊藤敬<sup>1</sup>, 中山慎也<sup>3</sup>, 西山正吾<sup>3</sup>, 渡辺尚<sup>3</sup>

Kenichi TABATA, Sei IGARASHI, Akifumi OSAKO, Takashi SAITO, Shinya NAKAYAMA,

Shogo NISHIYAMA, Naoshi WATANABE

<sup>1</sup>尚綱学院大学, <sup>2</sup>東北学院大学, <sup>3</sup>宮城教育大学

【キーワード】 教員養成, 理論と実践の往還, モデルカリキュラム, ICT活用

### 1 本研究の背景

教員養成課程において, 学修の統合を学生に期待し自分の専門を講ずればよいという教員の態度を, 「予定調和論」, 「なわばり無責任論」と横須賀薫(1973)が批判して久しい。教員養成課程における理論と実践の往還(融合)の重視の根底にある批判である。

### 2 宮城教育大学理科のトライアル

(1)宮城教育大学フレンドシップ事業(理科)

理科専門科目と理科教育法の担当者の指導のもと学生に準備させた理科実験を, 大学の実験室に招いた中学生を対象に, 附属小, 中学校での教育実習を控えた3年次学生を指導させた。(現在は終了)

(2)教育実践研究A, B(教育実践指導法A, B 教育実践探究A, B)

2年次学生がA, 3年次学生がBを履修する。3年次教育実習での授業づくりをターゲットとした科目であり, 2, 3年次ともに模擬授業を行う。年齢差を超えた協働について学ばせるために, 授業の一部では授業検討を2, 3年生が同一グループとなって行う。教科の専門科目と教科教育の担当者が指導する。

(3)物理学講義Ⅱ

教員の授業ビデオを参照して, 学生が物理学の講義を行う。物理学の専門的な講義と指導法を組み合わせた講義である。

### 3 本研究の目的

本研究の目的は, (1)宮城教育大学理科のトライアルを, 学生に対するアンケートや卒業生に対するインタビューを基に評価すること, (2)評価を基に改善を加えること, (3)宮城教育大学理科のトライアルを他大学で可能な形で展開すること, (4)前記の(1)~(3)を踏まえ, 教科や教職の専門科目で学修した原理的な内容を教育実践に活かす能力を育む教員養成のモデルカリキュラムを構築すること, にある。

### 4 予備調査が示す今後の方向

教育実践研究A, Bの履修者に対する予備的なアンケートの結果は, 課外に模擬授業のリハーサルを行ったり, 教材を試作するなど, 学生が主体的に学ぶ傾向を示した。また, 卒業生に対するインタビューの結果は, 宮城教育大学フレンドシップ事業(理科)や教育実習等の, 実践的な学修が卒業後も印象に残る傾向を示したが, 一方で大学教員や実習校教員の関わりが, 実践的な学修に対する卒業生の評価に関連している可能性も示した。これらの結果に注目しつつ, 今後調査を継続する。

### 引用文献

横須賀薫(1973)「教師の教養と教員養成/その2」『教育』第288号, 66-73.

本研究は, JSPS科研費23K02556の助成を受けた。